

徳島県医師会報2023年9月号別冊

特集「コロナ禍を振り返る」

もくじ

まえがき	徳島県医師会 広報情報委員会 コロナ禍特集編集担当 高橋 浩子	1
コロナ禍年表		2
アンケート結果報告	コロナ禍を振り返る アンケート結果	3
コロナ禍を振り返る ～それぞれの立場から	医師会対策本部の立場から	9
	行政の立場から	14
	病院の立場から	19
	診療所の立場から	31
	歯科医師の立場から	46
	獣医師の立場から	48
	薬剤師の立場から	49
	看護師の立場から	52
	助産師の立場から	55
	介護士の立場から	57
	放射線技師の立場から	58
	医療事務の立場から	59
編集後記	広報情報委員会委員長 工藤美千代	61

コロナ禍の中明らかとなった世界一の場所

徳島大学大学院医歯薬学研究部整形外科 教授 西 良 浩 一

2020年初頭、コロナウイルス・パンデミックが始まった。3月末の花見の直後に緊急事態宣言が発せられ、私も2ヶ月徳島県より外に出られなくなった。さらに、県外患者が徳島大学病院に受診できなくなり、私の診療実績も激減した。研究会も全てがキャンセルとなった。診療も学問も止まってしまった。しかしながら、徐々に講演会が再開した。オンラインが進化したのである。忘れもしない2020年6月6日、香港をキーステーションとして、アジア太平洋脊椎最先端シンポジウムが開催され、私が日本代表に選出された。初めての国際WEB講演会であった。我々内視鏡ドクターの講演には動画が多用されていることからスライド操作に苦労したが、なんとか無事終了した。その後のWEB会議の進化と深化は目を見張るものがある。今では全く問題なく、世界中が繋がり、トラブルなく討議できるようになった。

2020年からの3年間で25回のWEB国際会議に招待された。通常ではこのペースで海外学会に参加することは考えられない。コロナ禍が産んだ新しい国際会議ならではの、である。2021年4月には、ウクライナのキーウ内視鏡脊椎コース (Kyiv Endoscopic Spine Surgery Course, Ukraine, April 16, 2021) で講演、2ヶ月後の6月ではモスクワのユーラシア整形外科学会 (Eurasia Orthopedic Society, Moscow, June 26, 2021) で講演した。戦争前のことである。

本人のテクニックが細分まで評価される国際WEB。完璧なビデオを提示し合うため、世界の最前線、最先端が一目瞭然。誰が内視鏡手術のトップランナーかが問われる国際シンポジウム。常に最高のビデオを提示した。圧巻であったのは、2021年に3日間かけて開催されたAO Spineダボスコース (Davos Course AO Spine Virtual Weekend-Endoscopy, Swiss, Dec 5, 2021) である。初日に内視鏡手術・基礎編、2日目に応用編と行われ、オンラインながら世界中から熱い討論が行われた。その時に不思議だったのは、討論が激しくなると、決まって座長が、「How do you think, Prof. Sairyō?」と、私に最終意見を何度も求めてくるのである。その意味は最終日に分かった。

最終日の朝、座長である韓国内視鏡第一人者であるLuke Kim教授の挨拶。「皆様、初日に基礎、昨日応用編と、内視鏡脊椎手術について理解が広まったと思います。さて本日は最終日です。今、世界で最も進化した、チャレンジングな内視鏡手術を3演題用意しました。お楽しみください」何と！3つのうち2つが私の講演であった。Kim教授の言葉に胸が熱くなった。局所麻酔での狭窄症除圧ventral facetectomy、そして、トランスKambin内視鏡固定術 (KLIF)。自分が世界一の場所にいることを、確信した。

2023年7月22日の日本テレビ「世界一受けたい授業」では、世界に誇る日本のスゴイ病院として紹介された。個人として取り上げられた医師は2人だけであった。2019年、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」以来のメディアである、オリジナルな東京を超える仕事をしていれば、自ずと注目は集まるのである。Beyond the Tokyo.

地方にいても世界で十分に戦える。徳島大学を卒業し免許を取ったら、若者が徳島を離れるという昨今。地方でも世界と戦えるというパッションをもった若者が増え、徳島県の医療が盛り上がることを希望している。